

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果及び改善方策について

佐伯市教育委員会

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果及び改善方策について(小6・中3)

市内の小学校6年生と中学校3年生を対象に、令和7年4月17日(木)に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。以下は、その集計結果です。

【目的】

- ①児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題の検証・改善を図る。
- ②学校における児童生徒への教育指導の充実、学習状況の改善等に役立てる。
- ③教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査内容】

①教科に関する内容

小6…国語、算数の2教科

中3…国語、数学の2教科

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等を調査。
- ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等を調査。

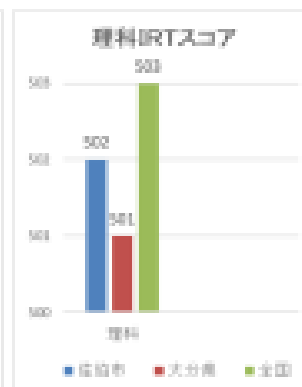
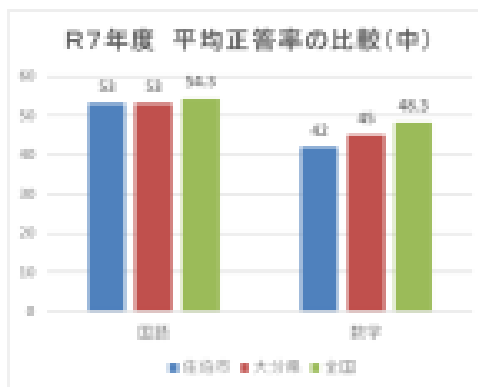
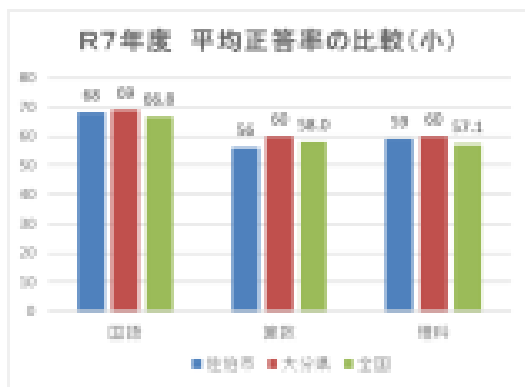
②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒質問紙・・・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校質問紙・・・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査

	小学校6年生				中学校3年生			
	国語	算数	理科	合計	国語	数学	理科 (IRTスコア)	2教科合計
佐伯市	68	56	59	183	53	42	502	95
大分県	69	60	60	189	53	45	501	98
全国	66.8	58.0	57.1	181.9	54.3	48.3	503	102.6

【平均正答率(全問題数のうち、どのくらいの問題を正答したかの割合) [%]の全体比較】



<結果概況>

- 小学校は、国語と理科で全国平均を上回った。
- 中学校は、国語、数学とも全国平均を下回った。
- 小学校の算数は、県平均と4ポイントの差がある。
- 中学校の数学は、県平均から3ポイント、全国平均から6.3ポイントの差がある。

<課題と対策>

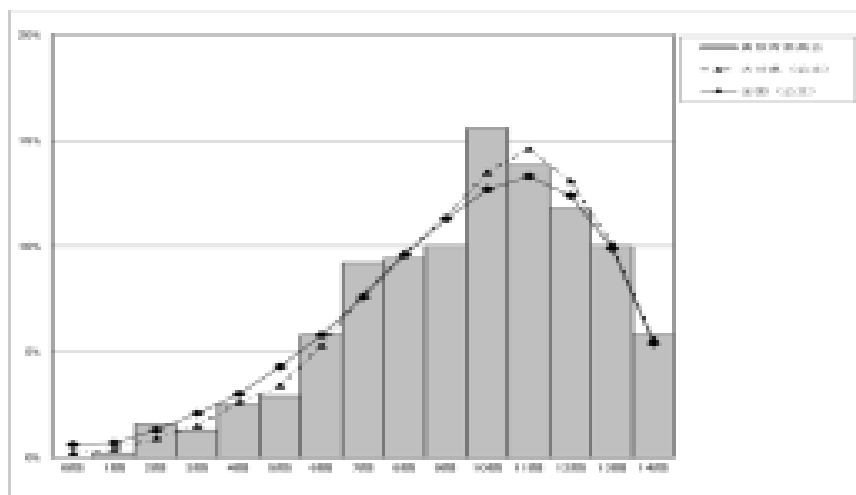
○小学校の国語においては、言葉の変化について、3つの資料に書かれていることを理由に自分の考えを書く問題、算数においては、異分母分数の、それぞれに共通する単位分数のいくつ分になるかを書く問題、理科においては、レタスの種子の発芽の結果から、新たに見出した課題を書く問題の無解答率が高い。自分の考えを条件にそって記述することに課題があることから、その要因を分析し、表現力の育成を目指した授業改善が必要である。

○中学校の国語においては、場面における効果について、自分の考えとその理由を書く問題、数学においては、新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する問題、理科においては、発表を見て、探究の過程における自分の振り返りを記述する問題の無解答率が高い。要因を分析し、題意に沿って自分の考えを説明する力の育成にむけた授業改善と、定着習熟の取組の改善を図る必要がある。

調査結果概況＜小学校＞

	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率 (%)	平均正答数	平均正答率 (%)	平均正答数	平均正答率 (%)
佐伯市教育委員会	9.6／14	68	9.0／16	56	10.1／17	59
大分県（公立）	9.6／14	69	9.6／16	60	10.2／17	60
全国（公立）	9.4／14	66.8	9.3／16	58.0	9.7／17	57.1

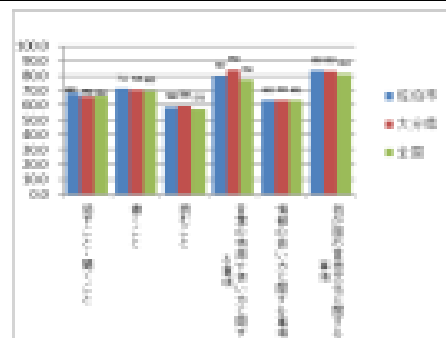
小学校国語 分布



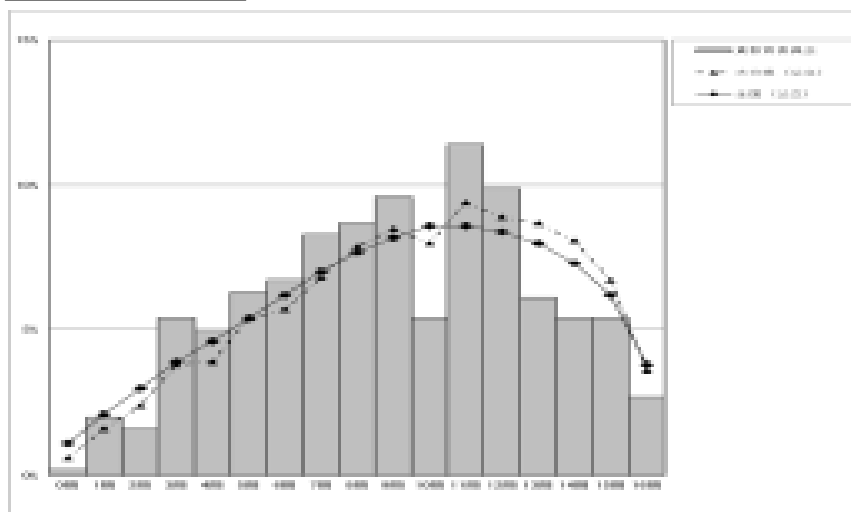
小6国語

平均正答率(%)

学習指導要領の内容	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	68.0	65.8	66.3
書くこと	71.1	70.6	69.5
読むこと	58.8	59.8	57.5
言葉の特徴や使い方に関する事項	79.7	83.8	76.9
情報の扱い方に関する事項	63.2	63.4	63.1
我が国の言語文化に関する事項	83.3	82.9	81.2



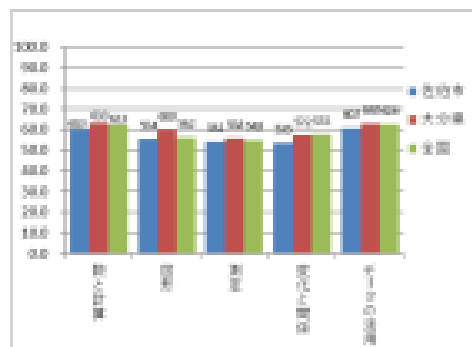
小学校算数 分布



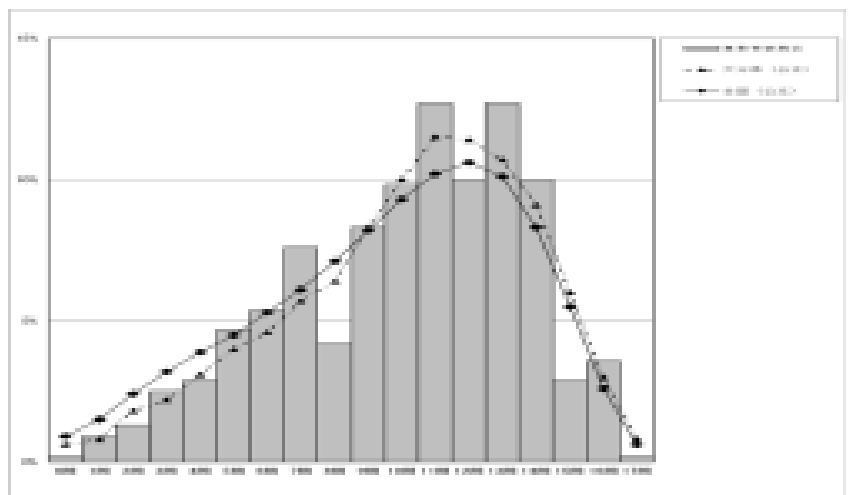
小6算数

平均正答率(%)

学習指導要領の内容	佐伯市	大分県	全国
数と計算	60.3	63.3	62.3
図形	55.4	60.0	56.2
測定	54.1	55.8	54.8
変化と関係	53.5	57.2	57.5
データの活用	60.7	63.0	62.6



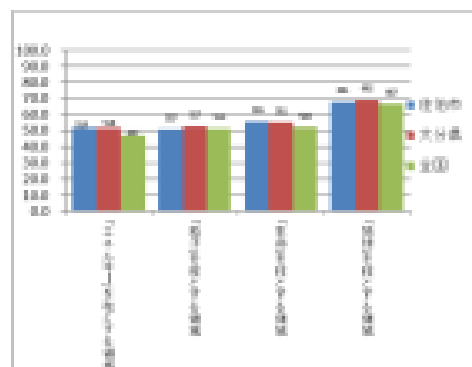
小学校理科 分布



小6理科

平均正答率(%)

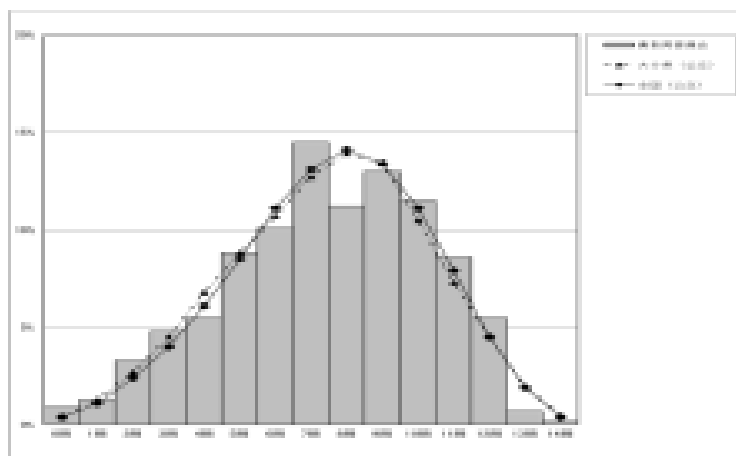
学習指導要領の内容	佐伯市	大分県	全国
「エネルギー」を柱とする領域	51.9	51.8	46.7
「粒子」を柱とする領域	50.7	52.7	51.4
「生命」を柱とする領域	55.5	55.1	52.0
「地球」を柱とする領域	68.1	69.2	66.7



調査結果概況＜中学校＞

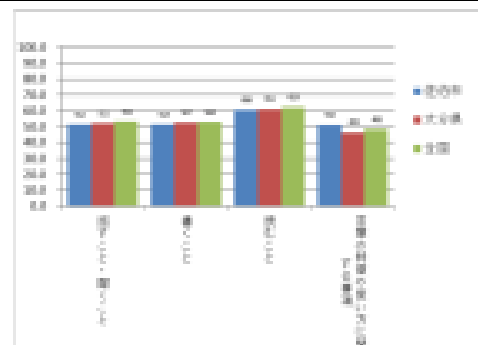
	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率(%)	平均正答数	平均正答率(%)	I R Tスコア
佐伯市教育委員会	7.4/14	53	6.3/15	42	502
大分県（公立）	7.5/14	53	6.7/15	45	501
全国（公立）	7.6/14	54.3	7.2/15	48.3	503

中学校国語 分布

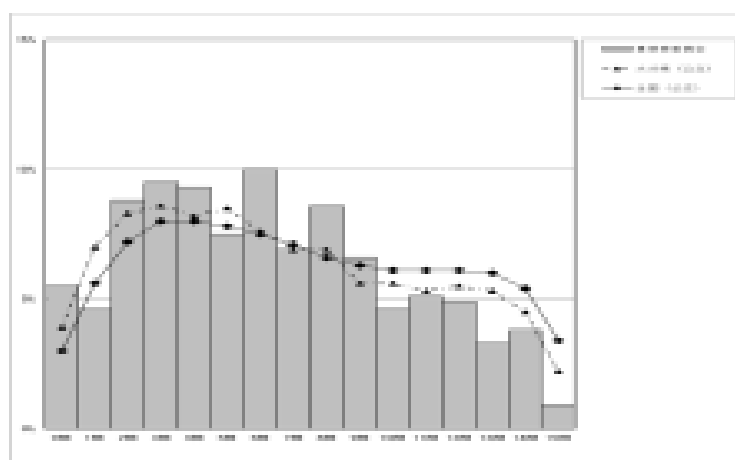


中3国語 平均正答率(%)

学習指導要領の内容	佐伯市	大分県	全国
話すこと・聞くこと	51.2	52.1	53.2
書くこと	51.3	52.7	52.8
読むこと	60.6	61.1	62.3
言葉の特徴や使い方に関する事項	51.0	46.5	48.1

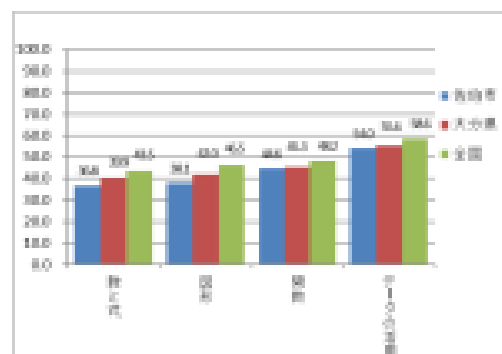


中学校数学 分布

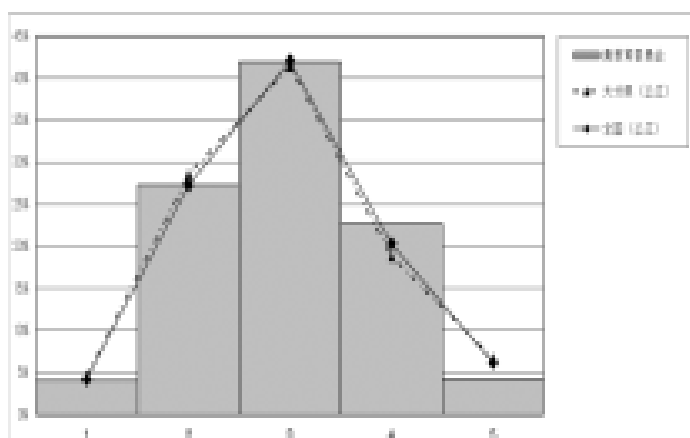


中3数学 平均正答率(%)

学習指導要領の領域	佐伯市	大分県	全国
数と式	36.8	39.9	43.5
図形	38.1	42.0	46.5
関数	44.6	45.3	48.2
データの活用	54.0	55.6	58.6



中学校理科 分布



小学校国語

佐伯市の平均正答率	68%
大分県の平均正答率	69%
全国の平均正答率	66.8%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 14 問

- ◇正答率 80% 以上の問題・・・4 問（大分県 5 問、全国 5 問）
- ◇正答率が全国平均以上の問題・・・10 問（大分県 9 問）
- ◆正答率 60% 未満の問題・・・3 問（大分県 3 問、全国 4 問）
- ◆正答率が全国を下回っている問題・・・4 問（大分県 5 問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆3三(2) 資料1を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、資料2・3・4に書かれていることを理由にしてまとめて書く。
(佐伯市 11.8%・大分県 10.9%・全国 16.2%)

<正答率が低かった問題>

【話すこと・聞くこと】

- ◆1一 「話し合いの様子」における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する。(佐伯市 55.8%・大分県 52.1%・全国 53.3%)
→目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を吟味することに課題がある。

【読むこと】

- ◆3二(2) 資料3を読み、木村さんのメモの空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する。
(佐伯市 49.8%・大分県 53.3%・全国 51.3%)
→事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題がある。
- ◆3三(1) 「話し合いの様子」の田中さんの言葉の空欄に充てはまる内容として適切なものを選択する。(佐伯市 38.8%・大分県 39.8%・全国 40.8%)
→目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。

②具体的な改善方策

- 複数の資料から、目的や意図に応じて必要な情報を取り出し、整理したり活用したりする学習活動を充実させる。
 - ・「読むこと」において、複数の資料を読み解き、関連付けながら理解したり活用したりする場面を想定した学習活動。
 - ・「書くこと」において、伝える相手や目的を明確にし、必要な資料を複数用意し関連付けながら、順番やタイミングを考えて活用する学習活動。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で適切に使うことを大切にする。
 - ・単語で漢字を覚えるのではなく、前後の文章の中で正しい漢字を選択したり、文意に沿った漢字を書き表したりする学習活動。
 - ・他教科や日常生活と関連させて、漢字に慣れ親しませること。
- 文の中における主語と述語との関係を捉える指導を各単元の中で大切にする。
 - ・主語と述語の関係を意識して文章を読んだり書いたりする学習活動。
(主語と述語が離れている、主語と述語がねじれている、主語がない場合などの読み解き方など)

小学校算数

佐伯市の平均正答率	56%
大分県の平均正答率	60%
全国の平均正答率	58.0%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 16 問

- ◇正答率 80% 以上の問題・・・3 問（大分県 3 問、全国 2 問）
- ◇正答率が全国平均以上の問題・・・5 問（大分県 12 問）
- ◆正答率 60% 未満の問題・・・7 問（大分県 7 問、全国 8 問）
- ◆正答率が全国を下回っている問題・・・11 問（大分県 4 問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆3 (2) $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数のいくつ分になるかを書く。
(佐伯市 13.9%・大分県 13.2%)

<正答率が低かった問題>

【図形】

- ◆2 (4) 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く。
(佐伯市 31.6%・大分 39.8%)
→基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することに課題がある。

【変化と関係】

- ◆4 (4) 10% 増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。
(佐伯市 33.4%・大分県 40.6%)
→「10% 増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すにこと課題がある。

②具体的な改善方策

- 異分母分数の加法の学習において、なぜ通分が必要なのか考察する時間を十分に保障する。
・図をかいたり式に表したりして考察し、異分母分数を計算するには「もとにする数（＝単位分数）」が必要で、そのいくつ分という考え方をつかませる。
- ・通分を学習する時から、「もとにする数（＝単位分数）」の考え方を徹底する。
- 図形の面積を求める問題において、等積変形や倍積変形をして複数の求め方を考察し、互いに説明し合う学習活動を充実させる。
・基本図形の面積の求め方を考える際、幾通りもの求め方を考察する中で、数学的な見方・考え方を働かせ、求め方は違っても答えが同じになる楽しさを味わわせる。
- ・答えが分かっている面積の求め方を、公式や算数用語を使いながら、友だちと説明し合う学習活動を位置づける。
- 割合を計算で求める際、小数で表された大きさは、基準量を 1 としたときにその「倍」を表すこと、割合をなるべく整数で表すために基準量を 100 とし百分率「%」で表すこと、を十分に押さえる。
・日常生活における場面を問題文にするなど、学習意欲を高める教材を工夫する。
- ・百分率を学習する際、小数で表す割合との関係性を数直線やテープ図に表して、視覚的に理解できるようにすることが大切である。

③特に課題となったこと

- 正答数が 0 問から 5 問までの低位層が 20.4% であった。大分県 (17.7%)、全国 (20.1%) と比べても、低位層の割合が高くなっている。
- 佐伯市の平均正答率が 大分県平均正答率より 4 ポイント下回った。国語、理科と比べてもその差が大きくなっている。さらに、大分県平均正答率から 4 ポイント以上の差となった学校が 8 校である。学校において詳細な分析を行い、授業改善に向けた取組が重要である。
- 九九や繰り上がり・繰り下がりのある計算、位取りの考え方、分数や小数の計算といった基礎が不安定だと、応用問題に取り組むことができない。各学年における基礎・基本の定着が重要である。
- 問題文を最後まで読みきれなかったり、何が問われているのかを正確に把握できなかったりする児童は、正しい計算方法を知っていても、式を立てることができずに終わってしまう。何が問われているかを把握させるための手立て（わたチェック、絵や図、数直線に表すなど）を個に応じた講じることが大切である。
- 算数に対する苦手意識も問題を解く意欲を低下させることにつながると考えられる。基礎・基本となる知識・技能の定着をはかる上で、「できた、わかった」と自信を持たせることが大切である。

小学校理科

佐伯市の平均正答率	59%
大分県の平均正答率	60%
全国の平均正答率	57.1%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 17 問

- ◇正答率 80% 以上の問題・・・2 問（大分県 2 問、全国 0 問）
- ◇正答率が全国平均以上の問題・・・10 問（大分県 14 問）
- ◆正答率 60% 未満の問題・・・8 問（大分県 6 問、全国 8 問）推敲
- ◆正答率が全国を下回っている問題・・・6 問（大分県 3 問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆3（4）レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見出した問題について書く。
(佐伯市 9.2%・大分県 8.7%)

<正答率が低かった問題>

【「エネルギーを」柱とする領域】

- ◆2（1）アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ。(佐伯市 12.3%・大分県 12.9%)
→身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの理解に課題がある。

【「生命」柱とする領域】

- ◆3（4）レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見出した問題について書く。
(佐伯市 33.9%・大分県 34.4%)
→レタスの種子の発芽の条件について、共通点や差異点を基に、新たな問題を見出し、自分の言葉で表現することに課題がある。

②具体的な改善方策

- 児童自らが、考察から次の問題を見出す状況をつくり、学習活動を広げたり、深めたりする授業を行う。
 - ・本設問（3（4））は、ヘチマの種子の発芽条件を観察・実験したことを受け、レタスの種子の発芽について調べてみたいことが見つかり、その新たな問題が何かを解答する問題である。実験や観察を行い、結果をまとめて終わるといった学習ではなく、結果を基に考察を行い、新たな課題を生み出し次の実験や観察につなぐ授業を行うことが大切である。
- 問題解決の力を育成することを意識した授業、単元構想を行う。
 - ・「問題解決の力は、その学年で中心的に育成するものであるが、該当学年で示した問題解決の力を該当学年のみで育成を目指すものではなく、4年間を通して、これらの問題解決の力を意図的・計画的に育成することを目指すものである。（学習指導要領解説 理科編 P96）」児童が自然の事物・現象に親しむ中で興味・関心をもち、そこから問題を見だし、予想や仮説を基に観察、実験などを行い、結果を整理し、その結果を基に結論を導き出すといった問題解決の過程を意識した単元構想、授業を行うことが大切である。

中学校国語

佐伯市の平均正答率	53%
大分県の平均正答率	53%
全国の平均正答率	54.3%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 14問

- ◇正答率80%以上の問題・・・1問（大分県2問、全国3問）
- ◇正答率が全国平均以上の問題・・・4問（大分県3問）
- ◆正答率60%未満の問題・・・7問（大分県7問、全国7問）
- ◆正答率が全国を下回っている問題・・・10問（大分県10問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆3四 「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣りの話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそうように考えた理由を書く。
(佐伯市 32.2%・大分県 33.7%・全国 28.1%)
→文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題がある。
- ◆4一 手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する。
(佐伯市 30.8%・大分県 33.2%・全国 33.5%)
→読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。
- ◆4二 手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く。(佐伯市 23.6%・大分県 23.7%・全国 19.1%)
→読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。

<正答率が低かった問題>

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- ◆1一 変換した漢字として適切なものを選択する。(佐伯市 35.5%・大分県 32.2%・全国 35.2%)
→文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。

【書くこと】

- ◆1四 ちらしの読み手に向けて、今年の特産品の工夫について伝える文章を書く。
(佐伯市 34.8%・大分県 32.7%・全国 31.0%)
→自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。

【話すこと・聞くこと】

- ◆2一 スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する。
(佐伯市 35.5%・大分県 36.4%・全国 38.1%)
→資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。
- ◆2四 発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く。(佐伯市 23.1%・大分県 23.7%・全国 23.2%)
→資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。

②具体的な改善方策

- 与えられた条件のもとで、根拠を明確にしながら自分の考えをわかりやすく話したり書いたりする活動を位置づける。
 - ・字数制限に加えて、いくつかの条件を満たしながら求められる内容を書く活動。
 - ・短学活での1分間スピーチや家庭学習の課題など、簡潔にまとめる日常的な活動。
- 文脈に即して、漢字を正しく使うことを大切にする。
 - ・単語で漢字を覚えるのではなく、前後の文章の中で正しい漢字を選択したり、文意に沿った漢字を書き表したりする学習活動。

中学校数学

佐伯市の平均正答率	42%
大分県の平均正答率	45%
全国平均正答率	48.3%

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○設問数 16 問

- ◇正答率 80% 以上の問題・・・0 問（大分県 0 問、全国 0 問）
- ◇正答率が全国平均以上の問題・・・0 問（大分県 0 問）
- ◆正答率 60% 未満の問題・・・13 問（大分県 13 問、全国 12 問）
- ◆正答率が全国を下回っている問題・・・13 問（大分県 12 問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆8 (2) A 駅から 60.0 km 地点につくられる新しい駅の運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する。（佐伯市 44.0%・大分県 41.5%）
- ◆9 (3) 平行四辺形 ABCD の辺 BC、DA を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E、F を取り、辺 AB と線分 FC の交点を G、辺 DC と線分 AE の交点を H としたとき、四角形 AGCH が平行四辺形になることを証明する。（佐伯市 35.4%・大分県 35.4%）
- ◆6 (2) $3n$ と $3n + 3$ の和を $2(3n + 1) + 1$ と表した式から、連続する二つの 3 の倍数の和がどんな数であるかを説明する。（佐伯市 28.5%・大分県 28.8%）

<正答率が低かった問題>

【数と式】

- ◆6 (2) $3n$ と $3n + 3$ の和を $2(3n + 1) + 1$ と表した式から、連続する二つの 3 の倍数の和がどんな数であるかを説明する。（佐伯市 18.4%・大分県 22.2%）
→式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- ◆1 (1) 1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ。（佐伯市 20.4%・大分県 24.8%）
→素数の意味理解に課題がある。

【図形】

- ◆9 (2) 平行四辺形 ABCD の辺 CB、AD を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E、F を取っても、四角形 AECF は平行四辺形となることの証明を完成する。（佐伯市 24.8%・大分県 27.9%）
→統一的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することに課題がある。

②具体的な改善方策

- 【数と式】数や文字式の重要な数学的用語について、定着できるような手立てを講じる。
 - ・授業の初めに、授業に関連する数学的用語について、短時間で復習できる場を設定する。
 - ・一覧表にまとめ、生徒が振り返られるよう、ノート等に貼ったり、タブレットにまとめたりする。
- 【図形】証明問題において、論理づけて記述することに慣れ、生徒どうしで説明し合う活動を充実させる。
 - ・証明に必要な条件（合同条件、相似条件等）や、問題文で与えられる「仮定」や図形の性質から分かることを、生徒自らが図に書き込むことを定着させる。
 - ・生徒間で説明し合う活動を充実させる。自分の証明の仕方を紹介するだけで終わらず、友達の証明と比較したり、証明と証明を関連づけさせたりすることで、自分の考えを明確にしたり、多様な考えに気づかせたりすることが大切である。
 - ・自分の考えを書く→友達に自分の考えを説明しながら交流する→交流をもとに自分の考えを練り直すことを各単元において充実させることが必要である。

③特に課題となったこと

- 正答数が 0～3 問の低位層が 28.4% であった。大分県 (27.8%)、全国 (23.8%) と比べても、低位層の割合が高くなっている。また、正答数 0 問の生徒が 25 人であった。0 問の生徒の要因分析を行い、授業における個に応じた指導の改善が必要である。
- 佐伯市の平均正答率が全国平均正答率より 6.3 ポイントと大きく下回った。全国平均正答率より 6.3 ポイント以上の差となった学校が 5 校である。学校において詳細な分析を行い、授業改善にむけた取組が重要である。
- ◎小学校で学習する四則演算や図形の面積・体積、分数の計算といった基礎が定着していないと、中学校で学ぶより複雑な問題に対応することができない。算数の学力調査問題を解かせたり、スマイルドリルを活用したりして算数の学習内容の定着状況を把握することや、必要に応じて算数の学習をふりかえることが必要である。
- ◎問題文を最後まで読み通せず、何が問われているのかを理解できない生徒が一定程度みられる。何が問われているかを把握させるため、取り出した情報を、生徒が自らの力で、絵や図、グラフに表し、問題場面を整理できるようにすることが大切である。
- ◎数学に対する苦手意識も問題を解く意欲を低下させることにつながると考えられる。基礎・基本となる知識・技能の定着をはかる上で、「できた、わかった」と自信を持たせることが大切である。

中学校理科

佐伯市の I R T スコア	5 0 2
大分県の I R T スコア	5 0 1
全国の I R T スコア	5 0 3

I R T スコア

I R T に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、5 0 0 を基準にした得点で表すもの。

◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題が見られる設問

○公開問題数 2 2 問

- ◇正答率 8 0 % 以上の問題・・・4 問（大分県 4 問、全国 4 問）
- ◇正答率が全国平均以上の問題・・・8 問（大分県 9 問）
- ◆正答率 6 0 % 未満の問題・・・1 4 問（大分県 1 5 問、全国 1 6 問）
- ◆正答率が全国を下回っている問題・・・1 4 問（大分県 1 3 問）

①学習指導要領における領域・問題別に見た分析

<無解答率が高かった問題>

- ◆ 1 (2) 「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水をつかうのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する。(佐伯市 7. 7 % ・大分県 10. 0 %)
- ◆ 1 (5) 塩素の元素記号を記述する。(佐伯市 7. 9 % ・大分県 11. 1 %)
- ◆ 1 (6) 水道水と精製水に関する 2 人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する。(佐伯市 9. 0 % ・大分県 12. 6 %)

<正答率が低かった問題>

【「エネルギー」を柱とする領域】

- ◆ 2 (1) 【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択肢、予想される実験の結果を記述する。(佐伯市 12. 9 % ・大分県 9. 8 %)
- 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題がある

【「生命」を柱とする領域】

- ◆ 7 (1) 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する。(佐伯市 27. 2 % ・大分県 35. 2 %)
- 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性を見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することに課題がある。

【「地球」を柱とする領域】

- ◆ 8 (2) A さんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようなになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す。(佐伯市 19. 8 % ・大分県 18. 2 %)
- 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現することに課題がある。

②具体的な改善方策

○考察の妥当性を検討し、探究の過程を振り返り、探究の過程を調整して実験を計画する

- ・本設問 (2 (1)) は、考察をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を記述する問題である。授業においては、結果を見通しながら、実験方法を考える場を設定すること、実験計画が立案できたら、どのような結果が得られそうか結果を想定する場を位置付けた授業を行うことが大切である。

○問題の内容を表やグラフ、図などに整理し、比較したり関連づけたりして考察する。

- ・本設問 (8 (2)) は、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現する問題である。問題文の 3 つのボーリング地点の地層の様子を、条件にそって絵や図に表すことで、何を問われているのか視覚的に捉えやすくなる。生徒が自らの力で問題の内容を、表やグラフや図で整理できるように指導することが大切である。そして、結果を比較したり関連づけたりしながら、生徒自らが考察する学習活動を充実させることが大切である。

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な数値

○：全国値以上 ▼：全国値未満 着色：大分県値以上

【小学校】授業に関すること

N o	項目	佐伯市	大分県	全国
28	PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用しましたか	○ 77.1	70.8	71.7
30(4)	PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	○ 51.9	48.1	45.2
32	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	○ 33.0	30.5	29.0
33	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	○ 33.0	28.6	28.7
40	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	○ 49.2	35.2	37.5
43	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学習やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	○ 54.0	49.8	47.3
45	国語の勉強は好きですか	○ 31.7	27.5	24.1
46	国語の授業の内容はよく分かりますか	○ 46.4	40.5	35.9
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	○ 64.1	57.8	55.9
50	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか	○ 38.5	36.3	34.7
53	算数の勉強は好きですか	▼ 32.8	35.0	33.7
54	算数の授業の内容はよく分かりますか	○ 45.3	43.5	41.7
55	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	○ 66.3	66.3	66.1
58	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	○ 33.7	30.6	29.3
61	理科の勉強は好きですか	○ 54.5	50.2	51.7
62	理科の授業の内容はよく分かりますか	○ 62.1	52.9	52.4
66	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか	○ 35.4	30.6	31.7

【小学校】家庭学習に関すること

N o	項目	佐伯市	大分県	全国
16	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	○ 35.2	34.7	32.6
17	普段（月曜日～金曜日）、1時間以上、勉強をしますか	○ 59.1	58.0	54.0
19	普段（土曜日～日曜日）、1時間以上、勉強をしますか	○ 55.4	52.0	47.1
21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらい読書をしますか。（全くしないの割合）	○ 23.0	28.2	29.2

【小学校】学びに向かう力に関すること

N o	項目	佐伯市	大分県	全国
5	自分には、よいところがあると思いますか	○ 48.4	47.4	47.3
7	将来の夢や目標をもっていますか	▼ 59.3	59.5	60.7
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	○ 85.8	83.5	81.4
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	○ 75.3	73.8	73.7
12	学校に行くのは楽しいと思いますか	○ 60.4	52.3	49.9
23	新聞を、ほぼ毎日読んでいますか	▼ 1.5	1.8	3.5
27	地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか	○ 38.1	34.1	33.8

【中学校】授業に関すること

N o	項目	佐伯市	大分県	全国
28	P C ・タブレットなどの I C T 機器を、週 3 回以上使用しましたか	○ 83.0	81.9	76.5
32	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	▼ 18.1	24.0	23.4
33	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	▼ 16.6	21.6	20.2
40	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	○ 30.5	29.8	29.8
43	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学習やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	▼ 48.3	49.8	48.7
45	国語の勉強は好きですか	▼ 20.8	23.7	21.6
46	国語の授業の内容はよく分かりますか	○ 26.5	25.5	25.4
50	国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか	▼ 25.4	29.3	26.9
53	数学の勉強は好きですか	▼ 21.0	26.9	26.5
54	数学の授業の内容はよく分かりますか	▼ 24.5	27.9	30.1
58	数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	○ 24.1	25.3	21.1
59	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか	▼ 21.2	26.2	27.7
61	理科の勉強は好きですか	○ 31.6	33.0	30.0
62	理科の授業の内容はよく分かりますか	○ 30.9	28.1	26.1
69	理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか	▼ 23.8	24.7	26.3

【中学校】家庭学習に関すること

N o	項目	佐伯市	大分県	全国
16	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか	▼ 22.7	29.6	27.4
17	普段（月曜日～金曜日）、1 時間以上、勉強をしますか	▼ 58.0	73.7	61.6
19	普段（土曜日～日曜日）、1 時間以上、勉強をしますか	○ 61.8	77.0	57.9
21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1 日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか（全くしないの割合）	○ 40.6	48.5	41.8

【中学校】学びに向かう力に関すること

N o	項目	佐伯市	大分県	全国
5	自分には、よいところがあると思いますか	▼ 34.7	40.5	40.7
7	将来の夢や目標をもっていますか	○ 37.5	35.0	35.5
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	○ 80.6	81.1	77.1
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	▼ 70.9	71.0	71.3
12	学校に行くのは楽しいと思いますか	○ 50.6	47.8	45.6
23	新聞を、ほぼ毎日読んでいますか	▼ 0.9	1.1	1.6
27	地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか	▼ 21.0	23.3	22.4

2 児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・「授業に関すること」「家庭学習に関すること」「学びに向かう力に関すること」の質問項目において、全国値よりも低い項目については、児童生徒の回答を真摯に受け止め、具体的な改善方策に繋げていくことが必要である。
- ・小学校算数、中学校数学においては、全国値に比べ教科の学習の好感度が下回っている。「楽しい、わかる、できる」授業にむけて、授業改善を進める必要がある。
- ・家庭学習について、「月曜日～金曜日に、1 日当たり 1 時間以上勉強する」が、中学校で全国値を下回っている。生活習慣の改善とともに、自分で学習を行う家庭学習の内容の検証および改善を図る必要がある。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」が全国値を下回っている。児童生徒の実態分析を行い、人間関係構築のための手立てを具体的に行う必要がある。

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

数値は「当てはまる」「よく行った」等、最も肯定的な数値

◎：全国値より10%以上

○：全国値以上 ▼：全国値未満 着色：大分県値以上

1 調査結果の概要

【小学校】授業に関すること

No	項目	佐伯市	大分県	全国
8	授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	▼ 22.2	43.4	35.3
9	将来、就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	▼ 5.6	23.8	20.0
17	言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の授業に応じて、学校全体として取り組んでいますか	▼ 44.4	57.8	44.8
27	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	▼ 11.1	27.9	23.0
36	総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の課程を意識した指導をしていますか	◎ 55.6	36.9	36.9
43	国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるように指導しましたか	◎ 50.0	39.3	34.9
44	国語の授業において、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導を行いましたか	◎ 61.1	36.9	33.6
46	算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行いましたか	▼ 33.3	43.9	38.2
47	算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか	▼ 44.4	51.2	45.7
52	理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか	▼ 33.3	52.5	50.0
53	理科の授業において、課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導を行いましたか	▼ 22.2	38.9	31.9
55	教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を週3回以上授業で活用しましたか	○ 100.0	93.9	94.2
56	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	○ 72.2	77.9	64.9
58	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週3回以上活用しましたか	○ 100.0	96.7	96.6

【小学校】家庭学習に関すること

No	項目	佐伯市	大分県	全国
80	家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	◎ 61.1	56.1	49.3
81	家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	▼ 16.7	33.6	38.2
82	学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	◎ 50.0	41.8	31.0

【小学校】教育課程に関すること

No	項目	佐伯市	大分県	全国
14	教育課程表について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	◎ 88.9	69.7	46.9
15	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	○ 44.4	60.2	44.3
16	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人材・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	◎ 77.8	61.5	52.2
72	近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	○ 66.6	68.9	65.3
74	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	▼ 77.8	90.2	89.3
76	地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか	○ 94.4	94.7	89.2
77	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか	○ 100.0	97.5	93.3

【中学校】授業に関すること

N o	項目	佐伯市	大分県	全国
8	授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	▼ 41.7	44.9	47.3
9	将来、就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	○ 50.0	49.2	48.0
17	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の授業に応じて、学校全体として取り組んでいますか	○ 41.7	46.6	39.4
27	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	◎ 41.7	35.6	25.8
36	総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の課程を意識した指導をしていますか	◎ 50.0	50.0	39.2
43	国語の授業において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるような指導を行いましたか	◎ 58.3	55.1	46.7
44	国語の授業において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるような指導を行いましたか	▼ 25.0	44.1	37.2
46	数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか	○ 33.3	35.6	24.8
47	数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか	▼ 41.7	51.7	46.3
52	理科の授業において、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか	▼ 50.0	58.5	51.0
53	理科の授業において、課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導を行いましたか	◎ 58.3	39.8	31.8
55	教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を週3回以上授業で活用しましたか	○ 100.0	95.0	92.5
56	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	▼ 50.0	68.6	53.0
58	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週3回以上活用しましたか	○ 100.0	97.5	94.5

【中学校】家庭学習に関すること

N o	項目	佐伯市	大分県	全国
80	家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	◎ 50.0	52.5	34.5
81	家庭学習について、生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	○ 33.3	40.7	27.1
82	学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしましたか	◎ 50.0	42.4	21.8

【中学校】教育課程に関すること

N o	項目	佐伯市	大分県	全国
14	教育課程表について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	◎ 58.3	53.4	42.2
15	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	◎ 66.7	61.0	40.1
16	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人材・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	◎ 58.3	53.4	37.4
72	近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	○ 75.0	78.8	71.7
74	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	▼ 75.0	86.4	87.8
76	地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか	◎ 100.0	85.6	79.5
77	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか	○ 41.7	45.8	31.8

学校質問紙調査の結果をふまえて

- ・小学校、中学校ともに「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか」については、全国値を下回っている。授業規律の徹底を図ることが必要である。
- ・小学校の「理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか」が全国値を大きく下回っている。科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるためにも、児童が主体的に観察・実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する学習を充実させることが必要である。
- ・中学校の「国語の授業において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることができるような指導を行いましたか」が、全国値を大きく下回っている。自分の考えを適切に表現する力の育成のために、文章の書き方、推敲の仕方についての指導を充実させることが必要である。
- ・小・中学校ともに、「家庭学習について、自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか」の数値が低い。児童生徒が自ら学習課題を見出し、学び続ける「自立した学習者」を育成する側面からも、家庭学習の内容について検証改善を行うことが大切である。

佐伯市学力向上対策に係る学力向上の取組

<佐伯市内小・中学校の現状・課題>

- (1) 基礎学力の定着と活用問題（課題）への対応
- (2) 表現力（自分の考えを書くこと等）の向上



<現状・課題をふまえた重点的取組>「佐伯市学力向上」プランから

◇定着・習熟の取組

- (1) 「習熟の程度に応じた指導」を意識した授業実践
- (2) 児童生徒の主体的な学習を促す個に応じた指導の徹底
- (3) 授業と連動した家庭学習と、家庭学習の確かな見取り
- (4) N I E の実践と家庭学習への活用
 - ・新聞社のワークシート等を活用した取組
- (5) 問題データベース・タブレット端末用学習教材、Web 評価支援システムの有効活用
- (6) 各種学力調査（全国調査・県調査・市調査）問題の有効活用
 - ・授業の内容に即して活用問題・練習問題として出題し解説
 - ・「授業アイディア例」（国立教育政策研究所）等を参考に
- (7) 英検の受検促進

どこでどのように取り組むのかを明確にし、計画的・継続的な取組を行う。

◇授業力向上の取組（新大分スタンダードに基づく授業改善を進める中で）

- (1) 付けたい資質・能力、評価規準を明確した授業の実施
 - ・授業を実施する前提として、授業者が付けたい資質・能力、評価規準を意識
- (2) 「情報の取り出し→思考・判断→表現」を一体化した授業の実施
(例)
 - ・資料や教材文から、解答のために必要な情報に線を引いたり、印をつけたりする（内容読解のための情報の取り出し、自分の考えをつくるための情報の取り出し）
 - ・取り出した情報を、児童生徒が図や絵、グラフ、数直線などに整理する。
 - ・全文掲示を利用し、関連する叙述と叙述をつなぐ、叙述と図をつながせる
- (3) 多くの情報から適切な情報を取り出し、自分の考えを書いて表現する授業の実施
 - ・複数の情報から適切な情報を取り出し、取り出した情報を基に、各教科固有の学習用語を使いながら、自分の考えを説明したり、書いたりして表現する。
- (4) 必然性をもったペア・グループ活動の実施
 - ・「相談したい」「話し合って課題を解決したい」等、ペア・グループ活動を行う目的を明確にする。
 - ・表現する場面の設定と児童生徒の姿の想定。

校内研修において共通理解し、日常の授業において具現化する。（授業観察の視点に組み入れる）

※「定着・習熟の取組」「授業力向上の取組」については、研究指定校の実践研究に学ぶとともに、積極的に授業公開を行い、自校の取組状況について検証改善を進めること。

※「授業力向上の取組」については、経験年数の浅い教員育成の観点から授業力向上アドバイザーを計画的に活用すること。